



# 「効率的な歩行空間ネットワークデータ等の 整備に向けた手引き」の改訂

---

令和2年10月

政策統括官付

- 地方公共団体が実施するバリアフリーマップ作成時等に行う「バリアフリー調査」に合わせて歩行空間ネットワークデータ等の整備を促進することを目的に手引書を作成
- 手引書は、主に市区町村のまちづくり部局、福祉部局、観光部局等バリアフリー施策に関する取組を実施している部局を対象としており、ガイドラインの「データ作成」の項目を自治体の既存施策との連携により、効率的に整備する視点から補完

## オープンデータを活用した歩行者移動支援サービスの取組に関するガイドライン（2018.7）

- 市区町村等が各地域で実際に取組みを進める際の参考とできるように、歩行者移動支援サービスの意義や導入までの手順や考え方など一般的な内容を記載

歩行者移動支援サービスの取組に必要な基本的な事項を記載



## 歩行空間ネットワークデータ等整備仕様（2018.3）

- 歩行者移動支援サービスの提供に際し、重要な役割を担う「歩行空間ネットワークデータ」と「施設データ」の整備内容と構造を定めたもの。

補完

## 効率的な歩行空間ネットワークデータ等の整備に関する手引き

- 歩行空間ネットワークデータ等のデータ整備推進を目指し、市区町村が歩行空間ネットワークデータ等の整備を効率的に行うための手引書
- 市区町村が実施しているバリアフリー調査※1等の既存施策と連携することにより、歩行空間ネットワークデータ等を効率的に整備する方法について実証を通じて確認した具体的な方法を記載

※1 移動等円滑化促進方針及びバリアフリー基本構想の策定・改定並びにバリアフリーマップや観光マップ等の作成に向けて実施する、歩行経路や公共施設等のバリアフリー状況を確認するための調査



- 歩行空間ネットワークデータ等は、バリアフリーマップだけでなく観光マップ等にも有効活用できるという点について、現地事業の実証結果をもとに手引書に反映
- 令和元年度に実施した長崎市や府中市の現地事業実施により得られた成果等を手引書に反映するとともに、一昨年度実施した川崎市、大東市の継続的な取組から得られた成果を反映

## 昨年度の手引書作成

- ①バリアフリーマップ作成時に実施するバリアフリー調査と連携した歩行空間ネットワークデータ等の整備を実証  
(神奈川県川崎市、大阪府大東市)

【実証での確認のポイント】

- バリアフリー調査と連携した歩行空間ネットワークデータ等の整備を実践し、実証においてデータ整備の可能性や方法、知見・ノウハウを確認

- ②歩行空間ネットワークデータ等の公物、道路等の管理や観光等への多用途への活用可能性を検証



バリアフリー調査と連携した歩行空間ネットワークデータ等を整備するための具体的方法を整理した「効率的な歩行空間ネットワークデータ等の整備に関する手引き」を作成

他自治体の参考となる知見・ノウハウ等の追加

## 今回の改訂のポイント

- ①地域の多様な主体等による歩行空間ネットワークデータ整備から得られた知見・ノウハウによる手引書の改訂

- ・ 地域の大学生が主体となり歩行空間ネットワークデータの整備・更新を行うための取組を紹介
- ・ 3次元データを活用した歩行空間ネットワークデータの整備効率化について事例を紹介

- ②歩行空間ネットワークデータ等を活用した観光マップ等への活用事例を追加

- ・ 自治体へのヒアリングを通じて収集した、観光マップに観光ルート等のバリアフリー情報を付与している事例等を紹介
- ・ 路面電車の電停から観光地までの歩行空間ネットワークデータを整備し、公共交通機関と連携した観光地までのバリアフリーナビゲーションに活用した事例を紹介



- 歩行空間ネットワークデータ等をバリアフリーマップ作成に活用するだけでなく、現地実証を踏まえ明らかとなった観光マップ等への活用方法・ノウハウ等を追加し、手引書の充実を図る
- 歩行空間ネットワークデータ等の作成に利用できる最新の計測技術の適用例や大学生が主体となりデータ整備・更新を実施した取組を掲載し、自治体が自主的にデータ整備を実施する場合の参考にできる手法等を充実を図る

構成	記載内容	主な追加・改訂内容
<p>1章 はじめに</p> <p>1-1. 手引きの目的と対象</p> <p>1-2. 手引きの位置づけ</p> <p>1-3. 手引きの構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 歩行者移動支援サービスで目指す環境、手引きの目的や想定する利用者について示す。</li> <li>● 本手引きと関係するガイドラインと仕様書の関係性を示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手引書の目的に「観光マップ作成への活用」の視点を追加</li> </ul>
<p>2章 歩行空間ネットワークデータ等の効率的な整備にむけて</p> <p>2-1. 歩行空間ネットワークデータ等を整備するメリット</p> <p>2-2. 歩行空間ネットワークデータ等の整備に向けた課題</p> <p>2-3. 歩行空間ネットワークデータ等の効率的な整備に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バリアフリー調査と連携して歩行空間ネットワークデータを整備するメリットと課題を示す。</li> <li>● 歩行空間ネットワークデータを整備・メンテナンスするための工夫を示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 歩行空間ネットワークデータ等を有効活用する対象としてバリアフリーマップだけでなく観光マップ等にも活用可能であることを追加</li> <li>● ICT技術を活用した歩行空間ネットワークデータ整備方法としてMMSやその他の計測技術を利用した取組を追加</li> </ul>



構成	記載内容	主な追加・改訂内容
<p><u>3章 歩行空間ネットワークデータの効率的な整備方法</u></p> <p>3-1. バリアフリー調査との連携 3-2. 調査路線と調査項目の検討 3-3. 調査図面の準備 3-4. 現地調査 3-5. 調査結果のGISデータ化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経路のバリアフリーデータを作るための手順と各手順の具体的方法、考え方のポイントを示す。</li> <li>● 実際に歩行空間ネットワークデータを整備した自治体を実施した際の、考え方や作成した資料を紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データ整備の検討例として電停から観光地までの経路を調査した長崎の事例を追加</li> <li>● 長崎県立大学の学生が中心となり歩行空間ネットワークデータを整備・更新を行える体制を構築し、データ整備を実施した事例を追加</li> <li>● データ整備路線の選定に障害者支援の視点だけでなく観光客等の視点への配慮も有効であることを追加</li> <li>● 歩道のバリアフリー情報を掲載した観光マップの事例やバリアの掲載項目を追加</li> </ul>
<p><u>4章 施設データの効率的な整備方法</u></p> <p>4-1. バリアフリー調査との連携 4-2. 対象施設の選定 4-3. 調査項目の選定 4-4. 調査票の作成と配布 4-5. 取りまとめとデータ変換</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設のバリアフリーデータを作るための手順と各手順の具体的方法、考え方のポイントを示す。</li> <li>● 実際に従来 of バリアフリーマップ更新にあたり歩行空間ネットワークデータ等に対応したデータを整備した自治体の考え方や使用した調査票等を紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電停から観光地までのアクセスを考慮して歩行空間ネットワークデータとともに対象施設を選定した長崎市の事例を追加</li> <li>● 昨年度の実証地域で継続的にプロジェクトに取り組んでいる川崎市のWebGISの事例を追加</li> <li>● 施設のバリアフリー情報を掲載した観光マップの事例やバリアの掲載項目を追加</li> </ul>
<p><u>5章 歩行空間ネットワークデータ等の多用途活用</u></p> <p>5-1. 歩行空間ネットワークデータ等のオープンデータ化 5-2. 多用途活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地方公共団体が歩行空間ネットワークデータの利活用した事例や検討した利活用方法を紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2年間の地方公共団体の実証を踏まえ実施したアンケート調査結果等から歩行空間ネットワークデータ等を利活用可能な自治体施策を追加、再整理</li> <li>● 歩行空間ネットワークデータをバリアフリーマップや観光施設へのアクセスマップとしてWebで公開した川崎市や長崎市の事例を追加</li> </ul>